

平成27年1月31日（土）

先生のための「冬の経済教室」

—— 授業に役立つ経済学 ——

『教科書の比較から、「企業」の教え方を考える』



神奈川県立海老名高校 教諭

梶ヶ谷 穰

【1】 学習指導要領（解説）から、「企業」の学習内容を確認する

（1）改訂の要点

- 中学校 社会 [公民的分野] イ 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習現行の学習指導要領においては、政治や経済などについて見方や考え方の基礎を養うことを重視したが、今回はさらにその基盤となる概念的枠組みを形成するため、**対立と合意**、**効率と公正**などを取り上げ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習を重視することとし、内容の(1)の「イ現代社会をとらえる見方や考え方」を設けた。
- 高校「現代社会」では、科目の導入において、社会の在り方を考察する基盤として、**幸福**、**正義**、**公正**などについて理解させ、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会にかかわる現代社会の諸課題を取り上げて考察させる中でさらに理解を深めさせるとともに、科目のまとめとして議論などを通して自分の考えをまとめたり、説明したり、論述したりするなど課題を探究させる学習を行い、人間としての在り方生き方についての学習の充実を図ることとした。また、青年期についての学習の中で伝統や文化を扱うこと、法に関する学習では、法や規範の意義や役割、司法制度の在り方について理解させること、経済に関する学習では金融、消費者、私法に関する内容の充実を図ることとした。
- 高校「政治・経済」では、習得した知識、概念や理論などを活用し、**持続可能な社会の形成**という観点から課題を探究させ、政治や経済について見方や考え方を身に付けさせるという従前の構成を引き継ぎ、一層の充実を図ることとした。その際、グローバル化や規制緩和の進展、司法の役割の増大などに対応して、法や金融などに関する内容の充実を図るとともに、国際政治において文化や宗教の多様性についても理解させることとした。

（2）各科目の内容の取り扱い

① 中学校・社会科 [公民的分野] ー私たちと経済ー

この大項目は、主として個人、**企業**及び国や地方公共団体の経済活動を扱い、消費生活を中心に経済活動の意義を理解させること、市場経済の基本的な考え方について理解させること、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させること、社会における**企業の役割と責任**について考えさせること、市場の働きにゆだねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たしている役割について考えさせること、財政の役割について考えさせることなどを主なねらいとしている。特に、経済に関する内容の学習については、なぜそのような仕組みがあるのか、どのような役割を果たしているのかということを理解させたり、経済活動が我々の社会生活にあらゆる面で密接なかかわりをもっていることを踏まえたりしながら、今日の経済活動に関する諸課題について着目させ、自ら考えようとする態度を育てることが大切である。・・・

「ア市場の働きと経済」では、経済活動の意義について消費生活を中心に理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、**社会における企業の役割と責任**について考えさせる。・・・

ア 市場の働きと経済

身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる。また、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解させるとともに、**社会における企業の役割と責任**について考えさせる。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について、**勤労の権利と義務**、**労働組合の意義及び労働基準法**の精神と関連付けて考えさせる。

ア については、**身近で具体的な事例を取り上げ、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目**させるとともに、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解させること。その際、市場における取引が貨幣を通して行われていることに気付かせること。この中項目は、経済活動の意義について消費生活を中心に学ばせながら、なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか、なぜ金融は必要なのか、どうしてそのような仕組みがあるのかということを理解させるとともに、**企業にはどのような社会的役割と責任**があるのかを考えさせることを主なねらいとしている。その際、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考えさせることとしている。

「価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」については「身近で具体的な事例を取り上げ、**個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通じて行われるという点に着目させる**とともに、市場における価格の決まり方や資源の配分について理解させる」(内容の取扱い)としている。

一般に、人間の欲求は多様で無限に近いものであるのに対し、財やサービスを生み出すための資源は有限であり、生み出される財やサービスもまた有限である。そこで、所得、時間、土地、情報などの限られた条件の下において、その価格を考慮しつつ選択を行うという経済活動がなされるのである。したがってここでは、市場経済において個人や**企業**は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するか選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかにかかわって、人的・物質的資源を効率よく配分する働きがあることなど、市場経済の基本的な考え方を具体的な事例を取り上げて理解させることを意味している。

「現代の生産…の仕組みや働きを理解させる」については、家計と**企業**との関連に着目しながら、人々が求める財やサービスを作り出す生産が、家計によって提供される労働やその他の資源を投入して企業を中心に行われていることについて理解させることを意味している。

「金融などの仕組みや働きを理解させる」については、家計の貯蓄などが**企業の生産活動**や人々の生活の資金などとして円滑に循環するために、**金融機関が仲介する間接金融**と、**株式や債券などを発行して直接資金を集める直接金融**を扱い、**金融の仕組みや働きを理解させる**ことを意味している。

「**社会における企業の役割と責任について考えさせる**」については、**企業は市場において、公正な経済活動を行い、消費者、株主や従業員の利益を増進させる役割を担っていること、さらに、生産活動以外に社会的に貢献していることについて考えさせることを意味している。その際、例えば、自分とかわらせて考えさせ、考えたことを説明させる学習活動を取り入れる工夫なども必要である。**

「消費者の保護」については、「消費者の自立の支援なども含めた消費者行政を取り扱う」(内容の取扱い)こととしている。ここでは、消費者の利益の擁護及び増進について、消費者の権利の尊重及びその自立の支援などのため、国は消費者政策を推進する役割を、地方公共団体は地域の社会的、経済的な状況に応じた消費者政策を推進する役割を担っていることを具体的な事例を通して理解させるとともに、**企業は消費者の安全や、消費者との取引における公正さを確保するなどの責務や、国や地方公共団体の政策に協力する責任があることについて理解させることを意味している。**また、消費者も自らの利益の擁護及び増進のために自立した消費者となるよう努めなければならぬことや、どのような消費者行政が行われているのかについて理解させることを意味している。

② 高校・「現代社会」(内容の取扱い)

「市場経済の機能と限界」については、経済活動を支える私法に関する基本的な考え方についても触れること「**金融**」については、金融制度や資金の流れの変化などにも触れること。また、「**個人や企業の経済活動における役割と責任**」については、公害の防止と環境保全、消費者に関する問題などについても触れること。

・・・ここでは、現代の経済社会において、自由な経済活動を基本とする市場経済の意義と機能やその限界、財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動が国民福祉の向上とどのような関連があるのかについて考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、**個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させることを主なねらいとしている。**

指導に当たっては、「内容の(1)で取り上げた幸福、正義、公正などを用いて」(内容の取扱い)、現代の経済社会における**個人や企業**はどのような目的で経済活動を行っているのか、また、経済活動に対してどのような責任があるのか、なぜ責任があるのかなどについて考察させ、市場経済に関する理解を深めさせるように配慮する。

「市場経済の機能と限界」については、有限で希少な資源の効率的配分をもたらす市場機構について理解させるとともに、寡占や独占、外部不経済など市場経済の限界などについても理解させる。その際「**経済活動を支える私法に関する基本的な考え方についても触れ**」(内容の取扱い)、**経済活動において取引相手同士が信頼関係を構築し、契約を履行することの重要性を考察させ、そうした取引を支える私法に関する基本的な考えについて理解させる。**

「**金融**」については、現代の経済社会において、金融の意義や役割を理解させるとともに、金融市場の仕組み、中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解させることが大切である。その際、「**金融制度や資金の流れの変化などにも触れ**」(内容の取扱い)、近年、金融の自由化が進んでいることや**直接金融**の比率が高まっていること、さらに近年の**金融制度や資金の流れ、金融政策の変化などを理解させる。**その際、クレジットカードや電子マネーなどの普及によるキャッシュレス社会の進行、金融商品の多様化など、身近で具体的な事例を通して指導の工夫を図ることが求められる。

・・・「個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる」については、個人や企業が社会を構成する一員として、経済活動において役割を担い、また法的責任のみならず社会的責任を担っていることを考察させることが大切である。その際「公害の防止と環境保全（内容の取扱い）」については、例えば、都市・生活型公害や身近な環境汚染の事例などを取り上げ、その解決には、行政による公害防止規制と環境保全のための適切な対応とともに、個人や企業は法的、社会的に責任ある行動が求められていることを理解させる。また、環境への負荷を少なくし、健全な経済発展を図り、持続可能な社会を築くことが、公害防止と地球規模での環境保全にとって必要であることの理解を深めさせるとともに、現代文明と生活様式の在り方を見直すことの必要性にも気付かせるようにする。

また、「消費者に関する問題」については、契約に関する基本的な考え方について理解させ、契約が複数の意思表示の合致によって成立する法律行為であること、不完全な意思表示に基づいて行われる場合は契約が無効になったり、これを取り消したりすることができることを理解させるとともに、契約により生ずる様々な責任についても理解させることが必要である。消費者問題については、「情報の非対称性」の観点から消費者保護の重要性を扱うだけでなく、消費者基本法や消費者契約法などを踏まえ、消費者の権利の尊重と消費者の自立支援の観点から指導することに留意することが大切である。その際、例えば、高金利問題、多重債務問題などを扱い、消費者としての権利や責任について考察させることが大切である。また、例えば製品事故、薬害問題などを扱い、行政や企業の責任にも触れるようにする。

③ 高校「政治・経済」（内容の取扱い）

(2) 現代の経済

ア 現代経済の仕組みと特質

経済活動の意義、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、金融の仕組みと働きについて理解させ、現代経済の特質について把握させ、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。

・・・内容の(2)については、次の事項に留意すること。

アについては、マクロ経済の観点を中心に扱うこと。「市場経済の機能と限界」については、公害防止と環境保全、消費者に関する問題も扱うこと。また、「金融の仕組みと働き」については、金融に関する環境の変化にも触れること。・・・「国民経済における家計、企業、政府の役割」については、家計、企業、政府が現代の経済における主要な経済主体であり、これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解させる。さらに、これら経済主体の相互間における財・サービス、貨幣の流れは海外ともかかわっていることに気付かせる。

家計（略）・・・、消費と貯蓄が企業の生産や投資と密接に関連していること、所得の変化に伴って消費の内容や水準が変化することを理解させる。また、物価の変動など国民経済の動きや、貿易や為替など国際経済の動向も家計の行動に影響を与えることに気付かせる。

企業の役割については、企業が家計や他の企業から提供された土地、労働、資本といった生産要素を結合し生産活動を行うことを理解させる。また、現代の企業の多くは株式会社の形態をとっていること、企業は、生産性を高め、法令を遵守しながら利潤を追求するばかりでなく、雇用の促進や技術の開発などを通して経済社会の進展に寄与するとともに、環境保全や文化の向上などにも貢献する社会的責任を負っていることを理解させる。

・・・また、市場の競争性が維持されている場合においても、公共財の提供がされにくいことや環境破壊など市場の失敗があることを理解させる。さらに今日多くの市場では、企業の巨大化により寡占化が進んで、価格メカニズムが理論どおりには十分に働かなくなっている面があることに気付かせ、独占禁止政策など、自由で公正な競争を維持するための政府による適切な政策が必要になっていることについて触れ、それらの対策について理解させる。その際、「公害防止と環境保全」（内容の取扱い）を外部不経済の視点から扱うとともに、「消費者に関する問題」（内容の取扱い）については、家計、企業、政府間の情報格差という情報の非対称性の観点から消費者保護の重要性を扱うだけでなく、消費者の自立支援の観点から指導することに留意することが大切である。また、例えば、製品事故、薬害問題などを扱い、行政や企業の責任にも触れるようにする。

「金融の仕組みと働き」については、金融とは経済主体間の資金の融通であることを理解させ、資金の需給が金融市場における金利の変化や、株式市場と債券市場の動向などによって調節されることを、銀行、証券会社など各種金融機関の役割や間接金融、直接金融の意義と併せて理解させる。

また、金融市場における金利の動向が通貨供給量の変化に波及し、消費や貯蓄、投資行動に影響したり、物価や株価、さらには景気の変動に大きな役割を果たしたりすることを理解させ、その関連において中央銀行の金融政策について触れる。

なお、「金融の仕組みと働き」については、「金融に関する環境の変化にも触れること」（内容の取扱い）とあるように、金融業務の自由化や金利の自由化に伴う金融に関する経済環境の変化による国民経済や、家計、**企業**への影響について理解させることが大切である。さらに、金融機関の倒産などにより金融市場の信頼性が著しく損なわれると、大規模な信用収縮が起き、資金の流れが滞ってしまい、経済活動に大きな影響を与えることに気付かせる必要がある。また、クレジットやローンなど日常生活の中での金融の役割、貸し手及び借り手の自己責任の原則や契約の重要性について、大項目(1)アと関連させて具体的に理解させるようにする。その際、多重債務問題にも触れるようにする。

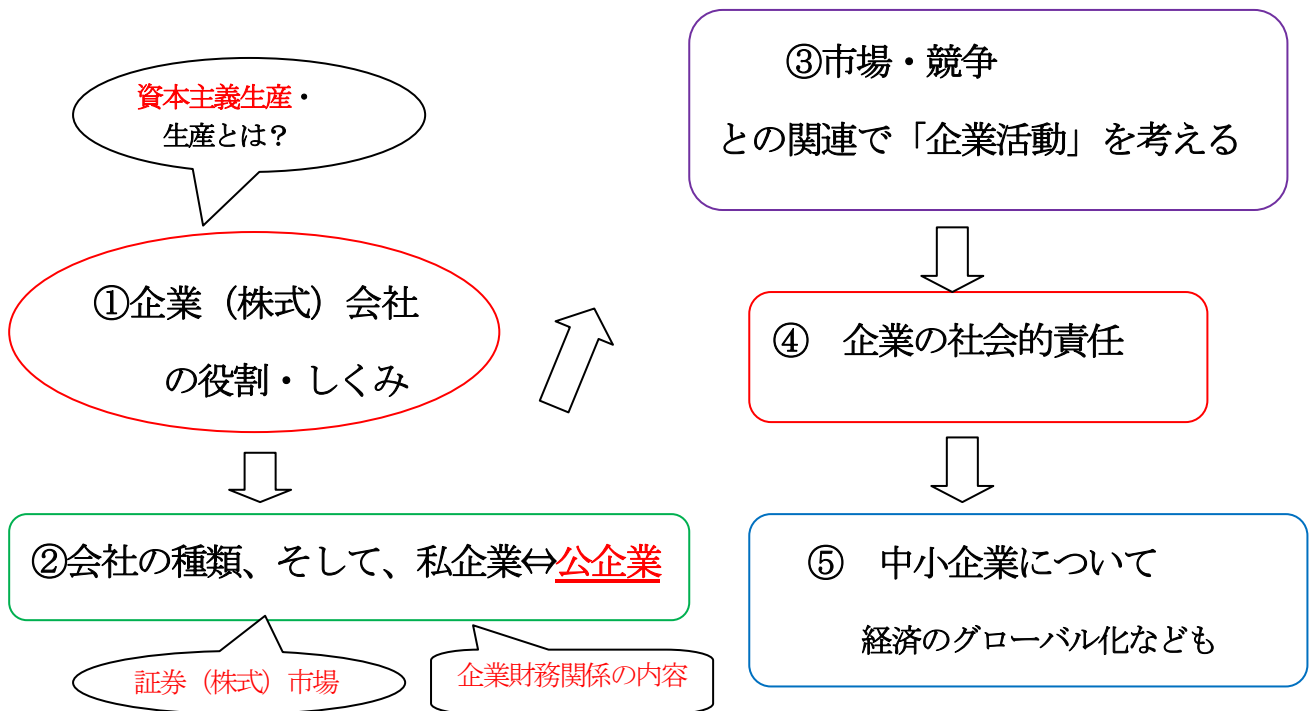
このような理解の上に乗って、経済のグローバル化や国際競争の激化、規制緩和の進展などの状況が見られる中で、日本の産業と中小企業の在り方について、経済の安定化のための政府による保護育成の立場と、規制緩和をさらに進める自由化の立場とを対照させ、**企業の規模による利益**、専門化による利益、消費者・労働者の利益などの視点から探究させる。

例えば、日本の企業の大半が中小企業である現状を踏まえ、中小企業の資金や取引の現状、あるいはグローバル化の進展に伴う問題点などを調べさせ、その課題を解決するに当たっての法制度や政策について探究させたり、ある産業分野のベンチャー企業を取り上げ、その事業内容や成功の原因などを調べさせ、中小企業の育成や発展について探究させたりすることなどが考えられる。また、日本の大企業と中小企業の関係や中小企業の役割などについて調べさせ、大企業との格差を是正し 中小企業の自立を支援する政策について探究させることも考えられる。

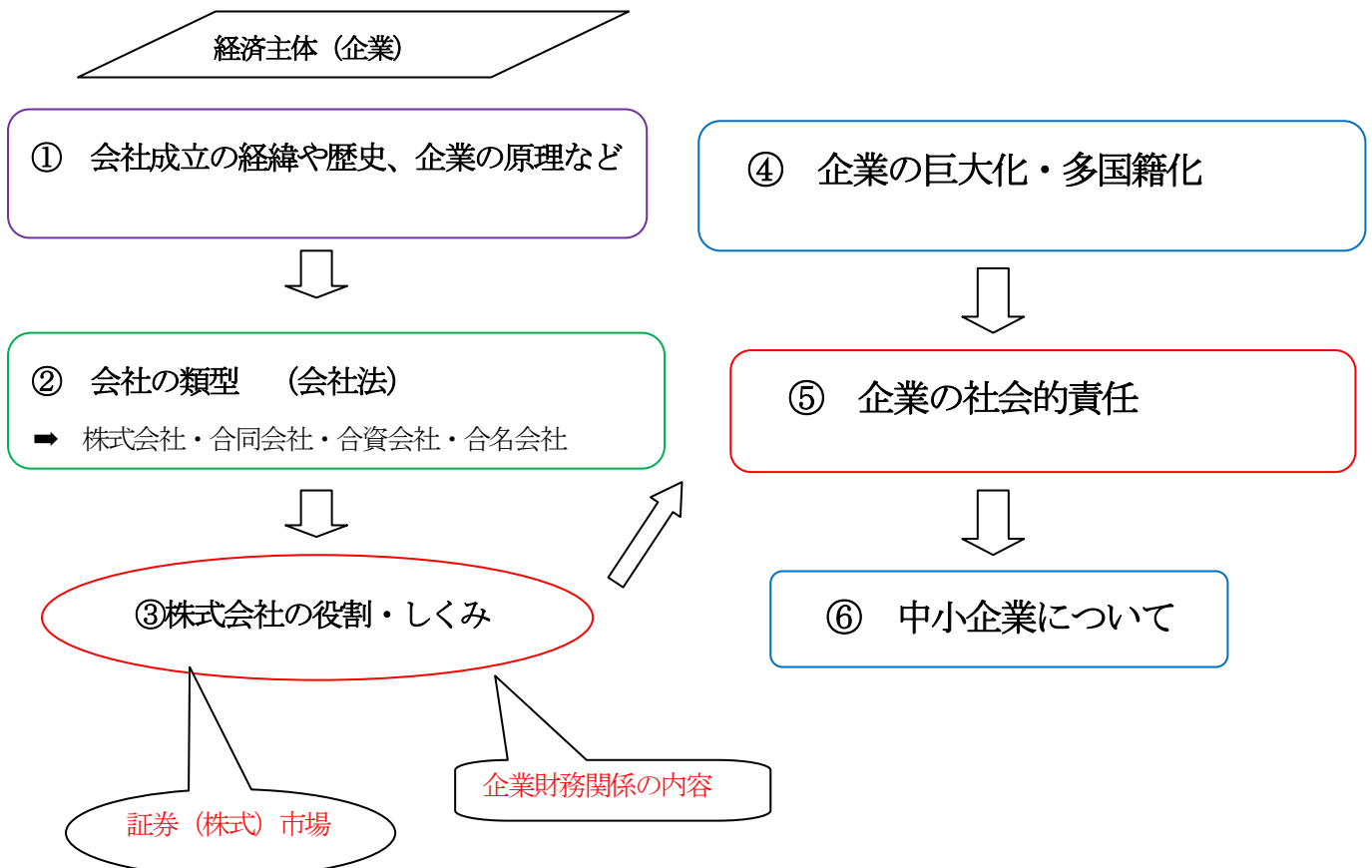
以上『中学校学習指導要領解説 社会編』『高等学校学習指導要領解説 公民編』より

【2】 教科書の記述の分析から考える、「企業」の学習項目と内容（概観）

① 中学校「公民」・・・「企業」の学習内容は、全体的に教科書の中で「分散化」か？



② 高校「公民（「現代社会」・「政治・経済）」・・・（概観）



【3】「企業」・学習内容を考える

- ① 企業の財務関係（バランスシートなど）をどこまで、どう教えるか。
- ② 株式（証券）市場についてどこまで、どう教えるか。
- ③ 「CSR」について、どのように教えるか。→やはり「利潤」の追求か？

【4】「企業」の学習内容の「応用的学習」の実践について

●具体的な教材を活用して ①

教材のご案内

体験してわかる金融と経済

ケーズへの3つのトビラ

経済探求の旅に出よう

先生用の指導書も充実

テーマごとの分割学習もできます

1テーマ50分で学習できます

教材は無料です

証券知識普及プロジェクト

「株式会社」「金融」「外国為替・金利・景気」を分かりやすく学べます。

教材の目的

この教材は、経済の動きに興味を持ち、金融の基本的な仕組みを理解し、得た知識を基に時事問題（ニュース）について考え、自分の意見を持つことができることを目的としています。

実施概要

対象 ▶中学生、高校生（新学習指導要領対応）
 ●想定教科…社会（公民的分野）、公民（現代社会、政治・経済）、商業など
 ●授業時間数…3時間（1テーマの単独実施も可能）

教材の構成

●主な学習内容は「株式会社」、「直接金融・間接金融」、「外国為替・金利・景気」。全体で3部の構成でテーマごとに分割した学習が可能。
 ●授業のカリキュラム中で無理なく活用いただけるよう、1つのテーマについて1時間（50分）で完結する展開。

教材1 ワールドトレジャーランド再生計画
 テーマパークの運営を題材に、会社経営者の一人として事業計画を立て、株主総会で発表し、会社の事業活動、株式会社のしくみ、企業の社会的責任などを理解します。

教材2 チャレンジ! 大航海～資金を手に入れ事業を成功させよう～
 グループで協議しながら、買戻船を購入することで、直接金融・間接金融の特徴を理解する。

教材3 景気変動の謎を追え～バブル景気に見る外国為替・金利・景気のしくみ～
 経済の基礎的な知識を4コマ漫画で学び、DVDと新聞を活用して、実際の経済の動きを見るワーク型の学習を行い、外国為替や金利・景気についての知識を深めます。

期待される効果

●**知識・理解**
 経済主体の1つである会社の役割・活動、株式会社の特色、企業の社会的責任、資金を調達する方法としての直接金融・間接金融や、外国為替・金利などの動きが経済に与える影響について理解できます。

●**資料・情報に基づく思考・判断**
 与えられた条件から自分が最優先と思うものを選択し、その理由を考え整理することができます。

●**実践活動: コミュニケーション能力の充実**
 自分の意見を発表し、他者の意見と比較・交換していく中で1つの方向性を導き出すことができます。

●**知識の定着、主体的な学びの効果**
 知識として学んだことを楽しみながら体験することで、より理解を深めるとともに、生徒が主体的に学習することができます。

教授用引書の特長
 円滑かつ効果的に授業を進められるよう、授業要領時や指導に役立つ情報を豊富に掲載。

1時間の授業展開例を掲載。指導時の留意点なども丁寧に解説。

体験学習の進め方だけでなく、事前の準備や次の授業へのつなげ方なども解説。

●具体的な教材を活用して②

(ア)『ハゲタカ』や (イ)『半沢直樹』を視聴させる。

例えば (ア) で登場する用語は・・・代物弁済、「ゴールデン・パラシュート」、ホワイトナイト、TOB（テイクオーバー・ビッド、株式公開買い付け、EBO（エンployee・バイアウトなど。